



【学校評価の結果報告】

12月に保護者の皆様にお願ひしました学校評価のアンケート結果、および、その分析・まとめが終わりましたので、主な結果についてご報告いたします。今後も、いただきましたご意見等をふまえ、笹原中学校をよりよい学校にするために、改善してまいります。

なお、教職員の自己評価ならびに学校関係者評価を入れました「学校評価総括表」の詳細につきましては、すでに、学校HP（ホームページ）に掲載しておりますので、どうぞ、ごらんください。アンケートへのご協力、本当にありがとうございました。

＜保護者アンケートより＞（※アンケート結果より一部抜粋）

ほとんどの項目で肯定的評価が85%を超えています。2年前課題であった、「学校は、いじめや子ども同士のトラブルなどにしっかりと対応している（83.0%→89.0%）」「学校は、各学年・各教科で出している課題などを通して、家庭学習の充実に努めている（80.6%→78.7%）」等については、改善の方向にあります。

（肯定的評価の%）

アンケート項目	R2年度	H31年度
学校は保護者や地域の願ひに応えている	92.2%	91.0%
学校は電子黒板やプロジェクターなどのデジタル機器を授業に取り入れている	90.3%	85.8%
先生は生徒の学力向上のため、授業の工夫や笹トレなど補習授業の実施に努めている	88.4%	90.8%
学校はコミュニティスクールへの移行を進め、保護者や地域との連携に努めている	84.2%	86.1%

＜生徒アンケートより＞（※アンケート結果より一部抜粋）

ほとんどの項目で肯定的評価が85%を超えています。ただし、「学校行事は楽しい（93.5%→90.3%）」「授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている（88.2%→87.3%）」「学校で地震や火災などの災害や不審者から身を守る方法を教えてもらっている（90.2%→83.8%）」「地域の行事（祭り、餅つき、運動会、ボランティア活動など）に参加したい（している）（63.8%→68.9%）」等については、もう少し改善の余地があります。

（肯定的評価の%）

アンケート項目	R2年度	H31年度
学校に行くのが楽しい	83.3%	82.4%
学校行事（体育大会・宿泊行事・トライやるなど）は楽しい	90.3%	93.5%
先生は電子黒板やプロジェクターなどデジタル機器を使うなど工夫して教えてくれる	99.2%	96.0%
授業はわかりやすく楽しい	93.0%	87.4%
授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている	87.3%	88.2%
笹トレで教え合いすることは学力向上に効果がある	95.4%	80.4%
自分を大切にすることや他人への思いやりについて教えてくれている	95.6%	88.7%
いじめや友だちとのトラブルにしっかりと対応してくれる	91.9%	89.9%
学校で、あいさつや時間など社会のルールやマナーについて教えてくれている	96.7%	96.2%

＜第4回学校運営協議会＞～学校関係者評価～

2月13日（土）10：30～、本校の会議室（管理棟1F）で、今年度最終「第4回学校運営協議会」を開催しました。会議の中で、学校評価（自己評価含む）についてのご意見をいただきましたので、主なものを紹介します。



【安心・安全な学校づくり】

- 学校長の方針が全教職員に今以上明確になることが必要である。80%以上ではなく、90%以上を目指してほしい。
- コロナ禍で、学校行事が変更や延期、中止となった中で、先生方が様々な工夫をされた跡が評価に出ている。
- 防災訓練を地域との連携で実施することは、今後避難所開設など含めて必要になる。

【学力の向上について】

- 「特別支援教育の推進」の評価「C」には問題がある。この教育の基本は、一般の生徒にも適用される。サポートだけではいけない。
→「得意なものを伸ばす」指導を目指すことが必要である。各学年、他学年、他校の取組から学び、情報共有ができればいいですね。
- 特別支援教育の理解・研修は今後ますます必要かつ重要と思います。
- 次年度へ向けた重点的な改善点としては、「教材の精選」があげられる。
①授業での説明を減少させ、生徒の活動の増加を検討する。
②そのために、教科書の重要ポイントを教材研究（精選）により検討する。
（学習指導要領の点検：教えるべきポイントは何なのか）
- 笹トレの評価が高いのは、ここ数年の生徒の達成感の表れだと感じる。
- タブレットは手段であるので、目的化しないように気をつけてほしい。今後は授業のソフト面での質を上げてほしい。
- 教科書とタブレットのハイブリッドが必要。最終的には、対話や体験、書くことで定着する。文科省もそのような内容は発信している。
- コロナ禍、デジタル化によって学習量の差がさらに出ると思う。家庭学習のやり方の指導をさらに充実させてほしい。全教員の共通認識、保護者との連携が必要。
- 振り返りは、生徒が主体的に取り組む「しかけ」をお願いします。
- 授業のUD（ユニバーサル・デザイン）は、小中連携が有効かもしれない。
- 図書室で、黙って読書する時間があってもいいかもしれませんね。

【豊かな心・健やかな体の育成について】

- 伊丹市全体では「不登校」の増加が見られるが、笹中では、この対応がしっかりとできている。
- 家庭でのゲーム没入の防止を考える。
→家庭（保護者）との連携（時間制限など）、毎日の家庭生活時間の点検などが必要。
- 「オンライン進路説明会」なども、今後は検討していく必要があるかもしれない。
- 「命の大切さ」「自転車の乗り方」「スマホの活用の仕方」などは、今後も生徒や保護者への啓発が必要である。（学校を頼りにして申し訳ないのですが…）（ウラ面へ）

【開かれ信頼される学校(地域連携)について】

- 学校だより、学年通信、保健だよりなど、定期的に情報発信があり、学校の様子がよくわかる。
- スクール・ソーシャル・ワーカーを通じての小中連携が、今後は、より一層必要かもしれない。
- 校舎がきれいになったので、これからは、清掃などのソフト面で美しさを継続してほしい。
- コロナの影響で、地域とのつながりが止まったことが危惧される。
逆に、地域やボランティアが学校にどう関われるかも課題。
- 地域と連携した防災の取組は今後必要である。
- 生徒が自主的にボランティアに行けるシステムがあってもいい。
- ICTを活用したつながり方を検討してもいいかもしれない。
→学校と保護者、学校と生徒、小学校と中学校など。



【総括として】

- 生徒・保護者ともに全体的に評価が上がっており、コロナ禍での先生方の頑張りに敬意を表します。今後もこの評価を落とさないよう取組の継続を望みます。
- 今年度はコロナ禍による生徒や学校現場の人的・物的な影響が大きかった。
 1. 3年生の進路に対する心配や懸念（この対応で、教員の努力や負担が大きかった）
 2. 2年生の部活動活動量の減少による将来への不安
（エネルギーの発散ができなかった → このエネルギーはどこへ？）
 3. 1年生の長期休業による人間関係作りの不安
（通常のやり方では対応できない、また、教員からの支援が大きく、不可欠）

< 次年度に向けた重点的な改善点 >

1. 新3年生への進路指導
「進路指導」とは、「高校などの紹介」ばかりではなく、
 - ①「生まれてから今まで何を継続的にやってきたのか」
 - ②「自分が一番得意とするものは何か」を、
本人（生徒）に自覚させ、それを活かすためには「どうしたらよいのか」を考えさせる指導
2. 新2年生への人間関係作り
感染防止教育、いじめ防止、友だちづくり、進路指導
3. 新1年生へのコロナ禍での対応のあり方
感染防止教育、いじめ防止、友だちづくり、進路指導

以上の内容について、本校学校運営協議会オブザーバーである太成学院大学教授 伊藤 博先生はじめ、各委員の方々からご指導・ご助言をいただきました。